令和6年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援振り返りシート

活動団体の活動におけるテーマ

『かさまSDGｓプラットフォーム」の再起動』

活動団体の活動地域　：茨城県笠間市

活動団体名　　：特定非営利活動法人
友部コモンズ

中間支援主体名：特定非営利活動法人
セカンドリーグ茨城

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

・都市の真似ではなく、里山らしさや生物多様性豊かな自然資源を地域の価値として位置づけ、環境保全・再生に取り組んでいる。有機農業および環境再生型有機農業の普及と、企業や消費者の間でも資源循環を意識した生産・消費行動をとっている。
・雇用に限らない、就農を含めた多様な仕事や生き方を選択できるスペースやコミュニティがある地域となる。
・誰かが何とかしてくれるのを待つのではなく、自分たちの街は自分たちがつくるという意識を持った地域となる。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

地域課題を聞き取り地域版マンダラを作成しながら、地
域の女性を中心にローカルSDGs事業創出へとつなげる。
聞き取り対象：
・笠間市など公共組織、団体
・地域金融機関（水戸信金など）や地域事業者
・地域住民（環境・社会課題に関心のある層）
・地域住民（女性・子育て世代）

ローカルSDGs事業として取り組む内容

・サステナブルビジネスピッチ
・スモールビジネス創出／市民マルシェ
・環境再生型有機農業推進事業
・コモン再生事業

地域の現状

笠間市は人口約72,573人（令和2年時点）、温暖な気候で多様な農作物が栽培可能。観光資源として笠間稲荷神社や笠間焼
があるが、人口減少と高齢化が進行している。
・農業が主要産業であるにも関わらず農業者の減少と高齢化が進んでいる
・高齢化が有機農業への転換も阻んでいる
・耕作放棄地の増加、地域の場所の維持管理が出来なくなっていること
・高齢化が進み地域コミュニティがなくなり高齢者の孤立化が増えている

【年度当初計画】　3か年状態目標

2026年度末の状態目標

・地域で一緒に活動してくれる人がさらに増えており、地域の環境意識が高まっている。農薬や化学肥料、除草剤を使わないでおこうという意識が高まる。有機農家が増え、オーガニックビレッジとしての存在感が高まっている。
・自分たちで課題解決に取り組もうとする人たちが増え、ローカルSDGs事業が1つ生まれて、スタートアップ状態にある

2025年度末の状態目標

・地域の、環境や社会課題に関心のある人たちや、女性たちとのつながりが増え、より多くの人たちが地域づくりに関心を持って動くようになっている。市民マルシェが小さく開催できるようになり、自分たちで何かを創り出すことに熱意をもって動く人が増えている。この動きから、ローカルSDGs事業創出に向けたプロジェクトチームが1～2軒、立ち上がり始めている。
・森の再生活動のフィールドが子供の居場所など地域に開かれた場所に少しずつ進化している。
・環境課題についての発信を強化しており、地域の環境意識やオーガニック意識が高まっている。

2024年度末の状態目標

・地域の課題について広く意見を集めることができ、多様な視点を得ることができている。
・地域の環境や社会課題に関心のある人たちや、女性（特に専業主婦や子育て世代）たちとのつながりが少しずつでき始めており、一緒に活動に参加する人も現れている。
・市や社協などとの連携が強まり、情報や意見の交換などがしやすくなっている。
・森の再生活動に参加するボランティアが増えている。
・6次化の検討など環境再生型有機農業の推進に向けた基盤づくりが進んでいる。

【年度当初計画】　中間支援の方針

■見立て

・「かさまSDGs プラットフォーム」を通じた対話・議論を通じて、参加者内での共有知や暗黙の合意が生まれ始めているが、より広く多様な主体を巻き込んでいくためのビジョンの可視化・整理が課題になっている。また、ワークショップの内容が構造的に整理されておらず中長期的に対話・議論の場を継続するには、一定程度の構造化・形式化が必要。

■打ち手

活動を始めた動機（WHY）を意識した、取り組みができるよう、事業についての振り返り、原点に立ち戻ることを促せるよう伴走していく。
また、プラットフォームの参画主体に様々な立場の個人・団体が関われるよう、中間支援のNPOとしてこれまでの知見や培ってきたネットワークを提供する。

■中間支援機能の強化・振り返り

セカンドリーグ茨城が目指す「協働型・共助型社会」の実現のために地域共生圏プラットフォームの概念を取り入れる。
人間が健康で健全な暮らしを継続して行くためには、健康で健全な自然環境は欠かせない。それを持続可能なものにする視点や価値観が経済活動や暮らしに必須と考える。
友部コモンズが目指すプラットフォーム中に子ども子育ての領域を加え、地域の学校や教育機関もステークホルダーに加え、地域共生圏の未来がつながるプラットフォームをモデルとし、県内に地域共生圏づくりを広げ、各共生圏がネットワーク化することを目指す。そのために3ヵ年通じて知識やノウハウを共有し、スキーム化に取り組んだ友部コモンズにも中間支援主体として協働して推進していくことを目指す。

活動・支援のプロセスの振り返り

■R6年度活動・支援内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
						ステークホルダーミーティングを１回以上開催						
活動団体の活動			◆キックオフ（ブロックごと）					◆中間報告会				
	各公共組織・団体（市役所、社協など）からの課題ヒアリング							ざつだんコーヒー			笠間SDGｓプラットフォーム再始動	
活動団体の活動	環境課題・社会課題の映画上映会＆対話会			シネマダイアログ	シネマダイアログ	シネマダイアログ	シネマダイアログ	シネマダイアログ	シネマダイアログ	シネマダイアログ	シネマダイアログ	
	女性向けの自分を見つける＆スモールビジネス創出WS				女性向けWS①	女性向けWS①	女性向けWS①	女性向けWS②	女性向けWS②	女性向けWS②	①アサーション講座 ②ライフデザイン講座	
	イベントで繋がった人たちと繋がり続けるための場			スタートアップイベント視察								
中間支援主体の支援		◆中間支援ギャザリング①	◆キックオフ（ブロックごと）					◆中間報告会				◆中間支援ギャザリ
中間支援主体の支援					事業についての広報・周知の支援					企画段階からチームとして参画		

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

仲間を探す

中間支援主体の支援

- **上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て**

課題解決をするために的確な人材発掘活動と考えた。

- **具体的な支援内容（打ち手）**

・目的に沿った参加者を集めるためのチラシの作成支援

・参加者との関わり方、情報収集の仕方のアドバイス

- **打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）**

・参加者の層が、家族連れなど、課題に関心はあるが、まだ何をしてよいかわからない層に変わった。

・丁寧に参加者のつぶやきを拾うことができた。

- **中間支援主体としての気づき・成長**

・仲間を探すという主旨を活動団体と行動を共にする人という視点から地域を課題を共有する人という視点に変えることを促すことにより着地点が一致した。

活動団体の取組

- **活動名・時期**

シネマダイアログ・令和6年7月~令和7年2月(令和6年12月は休み)

- **なぜそれを実施したのか（実施目的）**

社会・環境課題に関心のある地域住民の掘り起こし、関係づくり、情報共有

- **実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）**

映画上映を通じて、新たに社会課題に関心のある地域住民の掘り起こしができた。

上映会参加者自身が、やりたくなったことを書く、認識が広がった

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル②

事業主体を探す

中間支援主体の支援

- **上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て**

抑圧感や課題を抱えている女性の自己啓発を通じることで、参加者が感じる社会課題を掘り起こせると考えた

- **具体的な支援内容（打ち手）**

これまでの支援経験から、参加者本人のペースを大切にしながら、自発的に進めるように、丁寧に支援するよう提案した。

- **打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）**

講座を2段階に分けて進捗状況に対応する丁寧な企画となった。

- **中間支援主体としての気づき・成長**

子育て支援の中間支援組織としての強みがこのような形で発揮できることに気づいた。

活動団体の取組

- **活動名・時期**

・女性のためのアサーション講座・令和6年8月~令和6年10月まで月1回開催

・女性のためのライフデザイン講座・令和6年11月~令和7年1月まで月1回開催

- **なぜそれを実施したのか（実施目的）**

日本は、ジェンダーバランスに問題を抱えた国で、女性が自信をもって、地域づくりに取り組むことのきる環境づくりをすることにより、地域の持続可能性が高まると考えたから。

- **実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）**

参加者の中には意識が変わった人もおり、実際に事業を始めようとする人も現れた。

活動・支援のプロセスの振り返り

- （特に前２スライドの支援を実施するにあたり、）今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？（中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入）

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目（番号）	支援をしたタイミング等
運営制度の設計	*プロセス支援*	*(1）①*	*定例ミーティングやイベント終了後の振り返り*
運営制度の設計	*プロセス支援*	*(2）①*	*定例ミーティングやイベント終了後の振り返り*
協働のプロセス	*プロセス支援*	*(5)　①*	*暫定のマンダラを作成　行政への共有*

- **共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか**

活動団体が地域（住民）に個別案件として提案して実施していたものを地域との協働事業と認識していたが、個別に抱えていた課題を地域に共有することにより同じ課題を持つ人が発掘できるのではという仮説を実施団体と共有し、仲間づくりを行った。

- **中間支援主体として向上したと思う中間支援機能**

今まで支援の軸にしていた寄り添い型の支援では、目的としていた方向と違った場合の修正が難しい場合があることに気づき、地方EPOの知見を頂くことにより、協働の支援ができるようになった。

- **R6課題だと感じたこと**

年度前半の支援の仕方が受動的だったことが、実施団体が本来の方向と違うほうに向かっていたにも関わらず気づきが遅れ、修正に時間がかかった。

地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

● **地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるといいと考えているか。R7～中間支援主体として今後どのようになりたいか。**

- 支援団体の主体性とミッションを大切にしながら、実際に行う事業活動を具体的に支援できる中間支援団体を目指す。
- 次年度中間支援主体としてさらに獲得したい中間支援機能は、専門家集団や別の事業などを行っていて中間支援ができる団体とネットワークをつくり、支援する仕組みを作る。

● **活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）**

- 事業主体を育てることと、新たに課題を掘り起こすプラットフォームを融合させる時が、重要な時期になる。
- その具体像を検討することを提案。
- アクションサイクルの全体と詳細：関東EPOの視点を取り込んで、アクションサイクルの詳細について妥当に回っているかを見立て、そのための打ち手を活動団体と先回りして議論していけるようにする。アクションサイクルからのアウトカム・アウトプットを軸に全体の連動性を意識して、活動団体と話し合う。
- 事務局含め運営体制の強化が必要だと考え、体制を整えるところを優先的に進める。そのために事業計画に基づいて必要な人員を逆算し、そのための人をどのように供給できるかをSL茨城も協働して考えていくとともに総務・会計の支援を行っていく。
- マンダラづくりのアウトプットをしっかりと形にし、事業づくりへと繋がる土台を構築できるよう支援する。具体的には、手が足りない時には、実施したイベントの記録などをSL茨城でも協働していく。

● **地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと**

● いままでやってきた寄り添い型の支援に加え協働型の支援について学んでいきたい